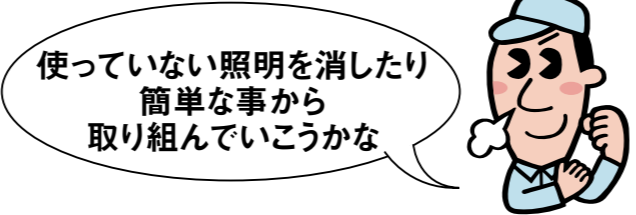


✓チェックリスト

～事業者の皆さまへ～



●基本アクション	
照明	店舗の照明を半分程度間引きする。 使用していないエリア（事務室、休憩室など）や不要な場所（看板、外部照明など）の消灯を徹底する。
空調	店舗の室内温度を28℃とする（または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる）。
冷凍・冷蔵	業務用冷凍・冷蔵庫の台数を限定、冷凍・冷蔵ショーケースの消灯、凝縮器の洗浄を行う。 庫内は詰め込み過ぎず、整理を行うとともに、温度調節などを実施する。
●節電効果の大きなアクション	
空調	室内のCO2濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取り入れ量を調整する（外気導入による負荷を減らすため）。
その他	ピーク時間を避けるため、営業時間や営業日を短縮・シフトする。 （系列店舗間で輪番休業または営業時間を短縮する）
●メンテナンスや日々の節電努力	
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。
空調	日射を遮るためにブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。
	フィルターを定期的に清掃する（2週間に一度程度が目安です）。
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに直射日光を避ける。
	搬入口やバックヤードの扉を必ず閉め、売場の冷気流出を防止する。 電気以外の方式（ガスなど）の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。
冷凍冷蔵	冷凍・冷蔵ショーケースの吸い込み口と吹き出し口には商品を置かないようにするとともに定期的に清掃する。 業務用冷蔵庫のドアの開閉回数や時間を低減し、オープン型の冷凍・冷蔵ショーケースに冷気流出防止用ビニールカーテンを設置する。 調理器具、業務用冷凍・冷蔵庫の設定温度の見直しを行う。
厨房	調理機器の設定温度の見直しを行う。
コンセント動力	使用していない機器（調理機器、温水洗浄便座、エアタオルなど）のプラグを抜く。 自動販売機の管理者の協力のもと、冷却停止時間の延長などを行う。
その他	デマンド監視装置を導入し警報発生時にあらかじめ決めておいた節電対策を実施する。
	コージェネレーション設備を設置している場合は発電優先で運転する。 需給調整契約（料金インセンティブ）に基づくピーク調整、自家発電機の活用など。
●従業員への節電啓発	
節電啓発	店舗全体の節電目標と具体的アクションについて、従業員へ理解と協力を求める。
	節電担当者を決め、責任者（店長）と関係する全部門の出席するフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。

定期的なエアコンの掃除！

わたしたちにもできる

昨年よりも厳しい電力需給が予想される今年の夏。ご家庭や職場でできる節電対策をしてみましましょう。

設定温度を28℃にする

グリーンカーテンをつくる

照明をLEDに

使っていない照明を消す

使用しないコンセントを抜く

昨年の東日本大震災による福島第一原発の事故以降、日本国内の原子力発電所が相次いで運転を停止しました。全国で電力需給が非常に厳しい状況となっています。
特にエアコンなどの家電製品を使用する機会が増える夏場には、大幅な電力不足が懸念されます。例年どおりの使用を続けると、計画停電や電気料金の値上げの恐れもあります。九州電力管内でもこういった事態を避けるため、以下のような節電の要請を行っています。

期間

7月2日（月）～9月7日（金）の平日
（お盆の8月13日から15日を除く）

時間帯

平日午前9時～午後8時

数値目標

昨夏比10%以上：午後1時～5時（電力需要ピーク時）
昨夏並み以上：その他の時間帯

節電に向けて
まずは身近なことから始めてみましょう。ご家庭や職場での簡単な取り組みが節電につながります。使用していない家電製品のコンセントを抜く。電力需要のピーク時を避けて家事をする。小さな努力の積み重ねで、地域全体の電力不足を解消できます。
まずは、次ページからのチェックリストで、自分のできる節電対策を探してみてください。今年の夏は、地域みんなで節電に取り組みしましょう。

●問い合わせ先=九州電力日南営業所 ☎0120-986-706